



特定非営利活動法人 日本歯周病学会

2020 年 第 2 号 (9 月)

ニュースレター

〒 170-0003

東京都豊島区駒込 1-43-9 (一財) 口腔保健協会内

TEL : 03-3947-8891 FAX : 03-3947-8341 <http://www.perio.jp/>

発行人 村上伸也 編集 広報委員会

【主要コンテンツ】

春季学術大会関連のご案内

認定資格申請のお知らせ

各賞・助成等の報告と募集

臨床研修会の報告と案内

理事長選挙延期について

「若手研究者の集い」開催報告

第 63 回春季学術大会を振り返って



第 63 回春季学術大会
大会長 高橋慶壮

2019 年 12 月に中国武漢で発生した新型コロナウイルスのパンデミックに対して、世界中が対策に追われています。日本では第 2 波が警戒されています。

3 月に学術大会の福島開催を断念し、誌上および Web 開催に変更しました。若干の変更はありましたが、学会初となる Web 開催によって、時宜を得た講演をお届けできたと自負しています。他学会の運営方針をみるかぎり、中止、延期、誌上開催、誌上および Web 開催の 4 つに分かれています。学会の使命や学問の発展スピードを勘案すれば、中止は最も消極的で、誌上および Web 開催が最善の選択であったと考えます。

TV 等でダイヤモンドプリンセス号での感染対応、マスクの効果、PCR 検査数、西浦モデルに基づく感染者および死亡者数の予測と実際の推移とのズレが繰り返し報道されました。科学は決して万能ではなく、しばしば失敗します。とりわけ、未知なる状況に対峙した際あるいは新たな概念を構築しようとすれば、失敗

を重ねるのは当然の帰結です。歯周病病因論のパラダイムシフトや歯周病分類の変遷をみれば、容易にわかります。失敗を省察し、新たな一步を踏み出す姿勢こそが「科学の健全さ」をアピールします。科学を基盤とする本学会のプロフェッショナルリズムの観点からも、今回の判断と行動は適切であったと考えています。

Web 開催には 4,000 名を超える参加をいただきました。遠方の会員には、時間に加えて交通費および宿泊費の負担がありません。非会員にも公開すれば、歯周病学を学ぶ門戸が広がるでしょう。本学会初の Web 開催を多面的に検証し、今後の学術大会の運営における危機管理の対策にも生かしたいところです。一方、開催地に還元する経済的効果は皆無となり、仲間との語らいや懇親会等で新しい出会いを得る貴重な機会を失いました。学術大会に参加することで感じるライブ感・一体感や、学会会場外での楽しみも味わえませんでした。私が初めて学術大会に参加したのは、大学院 1 年目に郡山で開催された第 31 回秋季日本歯周病学会学術大会でした。先輩の口頭発表、ポスター会場での演者との議論および会津磐梯山や五色沼周辺の鮮やかな紅葉を思い出します。

現地開催はかないませんでした。関係者各位および Web 開催にご参加いただきました皆様、協賛企業様に厚く御礼申し上げます。うれしいことに、先の常任理事会で 2024 年春に福島開催が実現できる運びになりました。今回の経験を生かし、学会会員に有益な学術大会についてじっくり考えたいと思います。引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

第 64 回春季日本歯周病学会学術大会開催のご案内

新型コロナウイルス感染発生に伴い、第 63 回日本歯周病学会学術大会は春季（郡山）・秋季（金沢）とも Web 開催となりました。岩手医科大学の新型コロナウイルス感染対応方針（6 月 18 日通達、政府通達に準拠）においても、参加者数等の制限から現時点では通常の現地開催は不可となっています。ソーシャルディスタンス、3 密回避、検温、収容定員の制約など、従来どおりの学会開催は誠に残念ながら困難な状況です。さらなる感染拡大や社会的制約の状況によっては、Web 開催に切り替わるかもしれません。状況は日々変化しています。開催校としての願いも込め、今回は通常の現地開催可能な場合をご案内いたします。

第 64 回春季日本歯周病学会学術大会は令和 3 年（2021 年）5 月 21 日（金）、22 日（土）の 2 日間にわたり、岩手県盛岡市駅西口のマリオス（盛岡地域交流センター）および隣接するアイーナ（いわて県民情報交流センター）での会場開催を予定しています。

本大会では「今、求められる歯周治療～研究から臨床へ～」をテーマに、FGF-2 等を用いた再生治療、歯周病と関連する糖尿病等の全身とのかかわりなど、さまざまな話題についての議論を展開したいと考えております。特に FGF-2（リグロス®）は、長期にわたり日本歯周病学会が中心となって保険導入した世界初の薬としての再生剤です。発売から約 5 年経過し、その有効活用の検証として活発なディスカッションを予定しています。

特別講演 I で、ハーバード大学の David M. Kim 先生が米国における歯周治療について、特別講演 II では、にしだわたる糖尿病内科学長の西田 互先生が「歯周病と全身の繋がり」についてご講演いただきます。またシンポジウム I は岩手医科大学の小林琢也先生が口腔と全身の関わりについて、シンポジウム II では大阪大学の村上伸也先生が FGF-2 を用いた再生治療についてのディスカッションを企画しています。

認定医・専門医教育講演では九州大学の鮎澤純子先生が医療安全について、歯科衛生士教育講演では九州大学の西村英紀先生が「歯科衛生士にとって必要な糖尿病の知識」についてご講演予定です。さらに歯科衛生士シンポジウムでは、日本歯科大学東京短期大学の野村正子先生が「歯科衛生士の役割」について企画中です。また倫理委員会企画講演は、岩手医科大学の岸

光男先生にご講演いただく予定です。

私ども岩手医科大学歯科保存学講座歯周療法学分野が担当いたしますのは、2 代目教授の故國松和司先生が 2010 年 5 月に第 53 回春季日本歯周病学会学術大会を担当させていただいて以来、約 11 年ぶりとなります。私どもの分野にとりましては、創設 50 周年を経て、節目の学会を担当させていただきますことを大変光栄に存じております。

本大会が開催されます 5 月下旬の盛岡は、春が訪れ温暖な気候となり、1 年を通じて最も過ごしやすい季節です。盛岡市内はもとより少し足を延ばせば、宮沢賢治の花巻や世界遺産で有名な平泉・中尊寺などの名所がたくさんあります。また、近郊の山の幸、三陸の海の幸、ブランド牛の前沢牛、3 大麺（盛岡冷麺、わんこそば、じゃじゃ麺）、南部杜氏伝統の日本酒など、学会の夜も十分に楽しんでいただけるものと思っております。

Web 開催に切り替わることなく、盛岡での現地開催が無事を実現できることを願いつつ、全国から多数の皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

大会長 八重柏 隆
（岩手医科大学歯学部歯科保存学講座歯周療法学分野）

1. 会 期

令和 3 年（2021 年）5 月 20 日（木）、21 日（金）、22 日（土）

2. 会 場

マリオス 盛岡地域交流センター（岩手県盛岡市盛岡駅西通 2-9-1）

アイーナ いわて県民情報交流センター（岩手県盛岡市盛岡駅西通 1-7-1）

3. 担 当

岩手医科大学歯学部歯科保存学講座歯周療法学分野

大会長：八重柏 隆

準備委員長：佐々木大輔

4. テーマ

「今、求められる歯周治療 ～研究から臨床へ～」

5. 参加登録（予定）

事前参加登録期間および参加登録費

2020 年 11 月 2 日（月）正午より
2021 年 3 月 26 日（金）正午まで

	事 前	直前・当日
正会員（歯科医師・医師ほか）	5,000 円	8,000 円
準会員（上記以外）	3,000 円	6,000 円
非会員（歯科医師・医師）	10,000 円	13,000 円
非会員（上記以外）	5,000 円	8,000 円
学生（歯学部・歯科衛生士専門学校などの学生）	当日のみ	1,000 円

6. 一般演題登録期間（予定）
2020 年 11 月 2 日（月）正午より
2020 年 12 月 18 日（金）正午まで

第 64 回春季日本歯周病学会学術大会臨床ポスター （認定医・専門医ポスターおよび歯科衛生士症例ポスター）発表申込のご案内

学術大会における臨床ポスター（認定医・専門医ポスターおよび歯科衛生士症例ポスター）発表の演題募集は、一般演題とは別になります。下記の要領でお申し込みいただくこととなりますが、受付は学術大会ホームページからのみになりますのでご注意ください。

演題申し込みおよび抄録作成方法などの詳細はサイト上で公開予定です。認定医・専門医と歯科衛生士症例のポスターカテゴリーごとに必ずご確認ください。なおオンラインでの申し込みが不可能な方は、第 64 回春季日本歯周病学会学術大会運営事務局（FAX:06-6342-0214, E-mail: jsps64@nta.co.jp）までお問い合わせください。

1. 演題発表資格

いずれのカテゴリーとも、筆頭発表者が学会認定資格（認定医・歯周病専門医あるいは認定歯科衛生士）を有している必要はありませんが、筆頭発表者と発表における責任者は本学会会員に限ります。また、本学術大会における筆頭発表は 1 名 1 演題までといたします。詳細は学術大会ホームページをご参照ください。

2. 演題申込および抄録登録期間（予定）

2020 年 11 月 2 日（月）正午より
2020 年 12 月 18 日（金）正午まで

※登録期間終了日はアクセス集中によるエントリー遅延・不具合が起りやすいため、それ以前の早めの時期に登録をお済ませください。

演題申込時には学術大会ホームページにて、留意事

項を必ずご確認のうえで応募くださいますようご案内申し上げます。留意事項を逸脱する行為および演題内容については、発表をお断りすることがあります。**特に「国内未承認薬・材料・機器の使用」「適応外使用」「未承認治療法」に係る症例は臨床ポスターとしての発表は不可です。また臨床研究発表では所属機関の倫理委員会等の承認、症例報告の場合は患者の同意を得ていることをポスターに明記する必要がありますので、ご注意ください。**

3. 臨床ポスター発表の特典

臨床ポスター発表を行うと、筆頭発表者に対して資格申請・更新に必要な所定の研修単位が付与されます（専門医の申請時、および認定医と専門医の更新時の生涯研修単位における業績発表単位は 10 単位、認定歯科衛生士の申請時・更新時の生涯研修単位における業績発表単位は 10 単位）。

4. 臨床・症例ポスターの発表様式

パネルサイズは高さ 210 cm×幅 90 cm といたします。表示形式および表記様式、ポスター討論についての留意事項を学術大会ホームページにてご案内いたしますのでご確認ください。**演題番号の個所や顔写真の掲示場所、承認や同意の記載場所、ポスター討論の時間等細かく規定されていますので必ずご確認ください。**なお、演題登録後における抄録の変更や討論時の発表者交代は認められません。ただし、なんらかの事情で発表ができなくなった場合は運営事務局にご連絡ください。

5. ポスター賞について

認定医・専門医優秀臨床ポスター賞は選考対象となることを希望された発表が、ベストハイジニスト賞は歯科衛生士ポスター発表として演題登録いただいたすべての発表が選考対象となります（ただし、留意事項を遵守されていない場合は対象外）。なお、臨床ポスター賞・ベストハイジニスト賞の事前審査をいたします。詳細は学術大会ホームページの演題登録画面よりご確認ください（事前審査提出締切：臨床ポスター賞

2021年4月2日（金）、ベストハイジニスト賞2021年5月7日（金）。受賞発表および表彰は次同学術大会（第64回秋季日本歯周病学会学術大会）にて行います。その際、受賞ポスターは再掲しますので、発表ポスターの保管にご協力願います。

専門医委員会委員長 吉成伸夫

認定医委員会委員長 山本松男

歯科衛生士関連委員会委員長 坂上竜資

認定医、専門医・指導医および認定歯科衛生士制度についてのお知らせ

日本歯周病学会では、本年度の認定医、専門医・指導医および認定歯科衛生士の申請と更新、ならびにその研修施設および学会認定研修会の申請を受け付けます。各資格についてのタイムスケジュールは以下のとおりです。

1. 認定歯科衛生士申請（第32回認定歯科衛生士認定審査）および更新

2020年10月19日（月）：受付開始

2020年11月6日（金）：締め切り（消印有効）

2020年12月頃：申請および更新に関する書類審査会開催

2021年3月頃：（申請者のみ）ケースプレゼンテーション

2021年5月20日（木）：申請・更新合格者を理事会で承認

2021年5月21日（金）：第64回春季学術大会（岩手）時に合格発表

2021年7月：認定歯科衛生士認定証発行

2. 専門医・指導医申請（第64回専門医・指導医認定審査）および各資格の更新

2020年11月16日（月）：受付開始

2020年12月4日（金）：締め切り（消印有効）

2021年1月頃：申請および更新に関する書類審査会開催

2021年3月頃：（専門医申請者のみ）専門医認定試験（ケースプレゼンテーションと口頭試問）開催

2021年5月20日（木）：各資格申請・更新合格者を理事会で承認

2021年5月21日（金）：第64回春季学術大会（岩

手）時に合格発表

2021年7月：専門医・指導医認定証発行

3. 認定医申請（第25回認定医認定審査）および更新

2021年1月11日（月）：受付開始

2021年1月29日（金）：締め切り（消印有効）

2021年2月頃：申請および更新に関する書類審査会開催

2021年5月20日（木）：（申請者のみ）筆記試験会場：アイーナ（いわて県民情報交流センター）（岩手）

申請・更新合格者を理事会で承認

2021年5月21日（金）：第64回春季学術大会（岩手）時に合格発表

2021年7月：認定医認定証発行

⇒2018年1月1日より、認定医申請の際に、本学会が行う倫理に関する講演の受講（1回以上）が義務付けられます。

以上の各資格の申請・更新手続き、申請書類や規則等については、学会ホームページ（<http://www.perio.jp>）をご確認ください。ホームページに記載された方法に準拠しない申請・更新手続きは無効となります。なお、規則・細則は改定されることがありますので、ホームページにおける申請受付前1カ月以内の最新の記載内容を確認してください。

研修施設申請・更新のお知らせ

認定医、専門医を養成する歯科医療機関を認定する制度です。申請・更新受付とも期間は2020年11月16

日（月）～12月4日（金）（消印有効）です。申請・更新手続きについては、学会ホームページ(<http://www.perio.jp>)に記載しておりますので、これに従い手続きを行ってください。

認定医、専門医・指導医更新に関わる研修単位を取得できる専門医委員会が認めた歯周病に関する学会および研修会申請についてのお知らせ

歯周病学に関する専門的研修に寄与する学会、指導医等主催による任意の研修会について、研修単位取得対象研修会として認定する制度です。申請期間は2020

年11月16日（月）～12月4日（金）（消印有効）です。手続きの方法等を学会ホームページ(<http://www.perio.jp>)に記載しておりますので、これに従い手続きを行ってください。新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年6月22日～7月10日の申請期間が延期となったことから、今回に限り、2020年6月22日～2021年3月31日の期間に開催する研修会の申請も受け付けます。専門医委員会で審査し、承認の場合は遡って承認とさせていただきます。2021年3月末頃までに専門医委員会の審査による認定の諾否を通知いたします。

各賞および奨学金助成募集のご案内

下記の募集を行います。いずれも学会ホームページにて詳細をご確認ください。

1. 日本歯周病学会奨励賞（2020年度）

奨励賞は、歯周病学の発展に寄与する学術論文を発表した若手研究者を表彰するために、本学会名誉会員見明 清 東京歯科大学名誉教授の寄付金を基金として、1995年に設けられました。ヒューフレディ株式会社のスポンサーシップを得ており、本賞（奨励賞楯）のほかに副賞（3万円と粗品）と楯（Hu-Friedy Award）が贈られます。4名以内が選考されますので、学会ホームページの応募資格をご確認のうえ、奮ってご応募ください。

<http://www.perio.jp/member/award/encouragement.shtml>

申請期間：2020年11月2日～12月11日

申請書類提出用ID：JSP-2020

2. 日本歯周病学会教育賞（2020年度）

教育賞は、歯周病学教育の発展に寄与した取組みを表彰することを目的としております。表彰対象は、歯周病学の教育の発展に寄与する取組みです。応募資格は、取組み代表者が本学会の会員であること、過去に本賞を受けたことがないことが条件です。なお、本賞は副賞として医歯薬出版株式会社のスポンサーシップを得ており、受賞者には本賞（表彰状）のほかに、副賞（5万円）が贈られます。学会ホームページの応募要項をご確認のうえ、奮ってご応募ください。なお本賞

は応募を郵送で受け付けます。

<http://www.perio.jp/member/award/education.shtml>

申請期間：2020年11月2日～12月11日

3. 奨学金助成（2020年度募集 2021年度実施）

日本歯周病学会は、次世代の歯周病学研究の質の向上を支援するために、若手研究者に対する奨学金助成を行います。本奨学金は、本学会が2011年度から基金として準備し、2013年度に設置されたものです。助成者は、申請者から2名以内（1件の上限は100万円）が選考されます。応募の条件が定められていますので、学会ホームページの規程をご一読のうえ、若手研究者の皆様には奮ってご応募ください。

<http://www.perio.jp/member/award/scholarship.shtml>

申請期間：2020年11月2日～12月11日

申請書類提出用ID：JSP-2020

4. Young Investigator Award（2021年度）

本賞は、学術大会発表において優れた研究を発表した若手研究者を表彰することを目的としております。表彰対象は、本学会当該年度の日本歯周病学会 Young Investigator Award に応募し、学術大会に発表された口頭発表とします。本賞は副賞としてサンスター株式

会社のスポンサーシップを得ており、受賞者には本賞（賞状）のほかに、副賞（Sunstar Award）と賞金が贈られます。応募の条件が規定されていますので、学会ホームページの応募資格（2021年2月1日までに掲載予定）をご確認のうえ、奮ってご応募ください。

<http://www.perio.jp/member/award/young.shtml>

申請期間：2021年2月1日～3月5日

申請書類提出用 ID：JSP-2021

健康増進に寄与した優れた活動業績を上げられた団体を表彰することを目的としております。表彰対象者は地域社会の歯科保健、特に歯周病治療の向上に優れた功績のあった団体です。応募の条件が定められていますので、学会ホームページの規定をご確認のうえ、奮ってご応募ください。

<http://www.perio.jp/member/award/regional.shtml>

申請期間：2021年2月1日～5月31日（郵送、消印有効）

5. 日本歯周病学会地域活動賞（2021年度）

本賞は、歯周病の予防・治療を通して、地域住民の

歯科衛生士教育講演・臨床研修会のご案内

歯科衛生士教育講演

今年度は2回開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により今年度の開催を中止させていただきました。今後につきましては対応が決まり次第、ホームページで通知いたします。

<http://www.perio.jp/member/>

臨床研修会

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、今年度の開催はすべて中止とさせていただきます。今後につきましては対応が決まり次第、ホームページで通知いたします。

<http://www.perio.jp/member/>

日本歯周病学会第5回近畿地区臨床研修会報告

第5回近畿地区臨床研修会が、令和2年2月2日（日）に滋賀県大津市の滋賀県立県民交流センター（ピアザ淡海）で開催されました。例年この時期の大津市は降雪などが危惧されるのですが、今年は暖冬で天候に恵まれ、今回の臨床研修会には、238名（歯科医師：135名、歯科衛生士：99名、その他：4名）の参加者があり、歯周組織再生療法や侵襲性歯周炎に関する最新の情報の提供と活発な議論が展開されました。

「最新の歯周病学に学ぶ」をテーマとした今回の臨床研修会では、午前の講演として、嘉藤弘仁先生と北村正博先生から、20年以上の使用実績をもつエムドゲイン®と日本発世界初の歯周組織再生薬リグロス®を用いた歯周組織再生療法に関して、作用機序などの基礎的事項から臨床における使用法や治療成績などにいた

る最新情報の提供がありました。そして、昼食時には特別講演（ランチョンセミナー）として、浦野 智先生に「リグロス®臨床例から見えてきたこと」と題して、リグロス®を用いた歯周外科処置における硬組織や軟組織の反応についての興味深い知見について、多くの症例を交えてご講演いただきました。さらに午後には、「侵襲性歯周炎」に関するシンポジウムが開催され、村上伸也先生、高山真一先生、藤原千春先生、水野智仁先生の4名にご講演いただき、国際ワークショップで策定された歯周病の新分類における侵襲性歯周炎の位置付け、侵襲性歯周炎の臨床的な特徴や全ゲノム遺伝子診断、家族性に発症する侵襲性歯周炎の遺伝子診断などについての最新の知見をお話いただきました。そして、その後の総合討論において、侵襲性歯周炎の

診断や治療法の将来展望に関する活発な議論が繰り広げられ、盛会裡に研修会が終了しました。

最後になりましたが、研修会の企画から準備、運営にいたるまでご尽力いただいた中村彰彦先生（滋賀県歯科医師会会長）をはじめ、滋賀県歯科医師会の各先

生方に深く感謝いたします。また、ランチョンセミナーにご協力いただいた科研製薬株式会社、企業展示にご協力いただいたサンスター株式会社とライオン歯科材料株式会社の関係者の皆様に深謝いたします。

各賞・助成選考結果

学会賞（2019年度）

池田雅彦

（医療法人社団池田歯科クリニック・理事長）



栗原英見

（広島大学大学院医系科学研究科歯周病態学研究室・教授）



東 克章

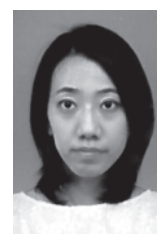
（東歯科医院・院長）



河村麻理

（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科歯周病態学分野）

Induction of migration of periodontal ligament cells by selective regulation of integrin subunits



榮楽菜保子

（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科歯周病学分野）

BMP9 directly induces rapid GSK3 β phosphorylation in a Wnt independent manner through class I PI3K Akt axis in osteoblasts



前川祥吾

（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯周病学分野）

RNA sequencing for ligature induced periodontitis in mice revealed important role of S100A8 and S100A9 for periodontal destruction



奨励賞（2019年度）

原 実生

（新潟大学大学院医歯学総合研究科歯周診断・再建学分野）

A bacterial metabolite ameliorates periodontal pathogen-induced gingival epithelial barrier disruption via GPR40 signaling



教育賞（2019年度）

音琴淳一

（松本歯科大学病院/松本歯科大学大学院健康増進口腔科学講座）

歯科医師臨床研修における歯周病治療をベースとした歯周治療指導と認定医・専門医への誘い～臨床研修必修化から現在までの取り組み～



優秀臨床ポスター賞（第63回春季学術大会）

最優秀賞ポスター賞

牧草一人

（京都・医療法人弘成会牧草歯科
医院）

「広汎型侵襲性歯周炎患者におけ
る約15年間の治療経過とSPTを
通して学んだこと」



優秀賞ポスター賞

柴戸和夏穂

（福岡・船越歯科歯周病研究所）
「広汎型重度慢性歯周炎患者に対
し、歯周組織再生療法とインプラ
ント治療を行った17年経過症例」



ベストハイジニスト賞（第63回春季学術大会）

江部由佳梨

（鹿児島大学病院臨床技術部歯科
衛生部門）

「非外科的歯周治療により改善が
みられた薬物性歯肉増殖症を伴う
慢性歯周炎患者の1症例」



研究者育成ファンドによる奨学金助成

前川祥吾

（東京医科歯科大学大学院医歯学
総合研究科歯周病学分野）



渡辺由佳

（東京医科歯科大学大学院医歯学
総合研究科循環制御内科学）



Sunstar Young Investigator Award

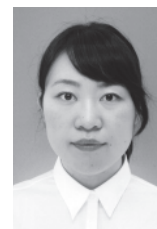
加藤麻友

（昭和大学歯学部歯周病学講座）
「口腔歯肉上皮由来細胞による接
合上皮細胞置換の可視化」



北村友里恵

（東京歯科大学歯周病学講座）
「*Treponema denticola* の表層病
原性成分の遺伝子調節機構の解
明」



第24期理事長選挙 実施延期について

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、次期理事長選出の選挙は来る令和2（2020）年10月15日に開催される、第63回秋季日本歯周病学会学術大会時の理事会に延期といたしました。

本年度ニュースレター1号にてご報告させていただきましたとおり、下記4名の「次期理事長有資格者」を選挙管理委員会より「次期理事長候補者」として、同理事会において報告のうえ、当日、直接選挙が行われます。結果は翌日の秋季総会時にご報告予定です。

記

次期理事長候補者：

小方頼昌，高柴正悟，坂上竜資，沼部幸博
（届出日順）

理事長選挙管理委員会
委員長 湯本浩通

日本歯周病学会会誌のご案内

前回の Newsletter 以降、刊行されました日本歯周病学会会誌に掲載されました論文をご紹介します。日本歯周病学会会誌は 2015 年よりオンライン化され、J-STAGE で閲覧できます。また、発刊に合わせてメールアドレスを配信しておりますので、学会にメールアドレスを登録されていない会員各位におかれましては、本学会ホームページよりご登録をお願いします。

日本歯周病学会会誌

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/perio/-char/ja>

日本歯周病学会会誌 Vol. 62 (2020) No. 1

原著

「生物学的に許容できる歯根面を得るためのルートプレーニング：実験的研究」

加納千博，小林宏明，野崎浩佑，妻沼有香，須藤毅顕，Khemwong Thatawee，三神 亮，和泉雄一

症例報告

「1 型糖尿病を有する広汎型侵襲性歯周炎患者に対して包括的歯周治療を行った 10 年経過症例」

松本ゆみ，新井英雄

「歯科用 CT ならびに 3D プリンターを用いた歯周組織再生療法への応用」

深谷芽吏，鈴木綾香，船津太一朗，松島友二，

八島章博，長野孝俊，五味一博

教育賞受賞内容

「東京医科歯科大学歯学部歯学科学生の歯周治療臨床実習の改革とその現状—2018 年卒業生の実習内容とその実績から—」

青木 章，竹内康雄，秋月達也，水谷幸嗣，

片桐さやか，池田裕一，前川祥吾，渡辺数基，

海老原 新，秀島雅之，二階堂 徹，小田 茂，
荒木孝二，岩田隆紀，和泉雄一

日本歯周病学会会誌 Vol. 62 (2020) No. 2

ミニレビュー

「歯周病病態における咬合性外傷の再考」

高橋慶壮，山崎厚作，山崎幹子

原著

「太陽電池付酸化チタン内蔵歯ブラシの口腔清掃効果」

吉峰正彌，山崎廉平，岡崎加奈，小木曾令実，

鴨井久博，浅木英理

「2 型糖尿病患者の教育入院時におけるヘモグロビン A1c と咀嚼機能および歯周炎との関係：横断研究」

中澤正絵，山本龍生，武藤恵美子，清野浩昭，

佐々木修一，角川智子，白井勇太，持田悠貴，瀧田慎也，

三辺正人

「組織酸素飽和度及び局所血流の測定に基づくヒト歯肉炎症の評価」

須藤嵩文，井川資英，山田 聡

症例報告

「非外科的歯周治療により改善した薬物性歯肉増殖を伴う慢性歯周炎の一症例」

田中吏絵，金子高士

「広汎型慢性歯周炎の治療に心理学的手法を取り入れた 11 年経過症例」

山口將日，溝口未可，石山沙織，篠田由香，加藤 熙

歯科衛生士コーナー

「病態から見えてくる歯周病の修飾因子—歯科衛生士として知っておきたい臨床所見—」

渡辺孝章

研究者育成ファンドによる奨学金助成対象者の報告

CXCL12 陽性歯乳頭由来幹細胞 (SCAP) の細胞運命と分化制御機構の解明

永田 瑞

Department of Orthodontics and Pediatric Dentistry, University of Michigan School of Dentistry

【背景】現在、歯根膜、歯髄、脱落乳歯などのさまざまな口腔組織から間葉系幹細胞 (MSC) が単離・同定され、MSC を用いた再生治療が注目されている。しかしながら、培養系を介さない内因的な環境において、口腔組織における幹細胞がどのような挙動を示し制御されるかの詳細なメカニズムは依然として明らかにされていない。近年、根未完成歯の歯根尖部に存在する歯乳頭由来幹細胞 (SCAP) が単離され、*in vitro* にて骨、脂肪、軟骨細胞、さらには神経細胞へ分化することが確認されている (*Pros One* 20; 1: e79, 2006)。本研究では、この SCAP がどのように歯根・歯周組織形成を制御するかを解明することを目的とした。具体的には、細胞運動の調節因子として知られるケモカイン CXCL12 (chemokine (C-X-C motif) ligand 12) に注目し、後述する SCAP 特異的な *Cxcl12-iCreER^{T2}* マウスを用いて、時期特異的に CXCL12 を可視化し、genetic lineage tracing (遺伝的な細胞系譜の追跡) により SCAP の分化過程を *in vivo* において検討した。

【実験方法】歯胚における CXCL12 の発現を *Cxcl12^{GFP/+}* マウスを用いて検討した。また、*Cxcl12-*

iCreER^{T2} BAC トランスジェニックマウスを用いて、*Rosa26-loxP-stop-loxP*-tdTomato マウスと交配させ、タモキシフェン投与により CXCL12 細胞を蛍光分子 tdTomato で標識できる *Cxcl12-iCreER^{T2}; R26R*-tdTomato マウスを作製した。さらに、CXCL12 陽性細胞の象牙芽細胞、セメント芽細胞への分化を確認するため、オステオカルシン GFP (*Oc-GFP*) マウスを交配させ、*Oc-GFP; Cxcl12-iCreER^{T2}; R26R*-tdTomato マウスを作製した。得られたマウスに対し、歯根形成開始期 (3 日齢) にてタモキシフェンを腹腔内投与し、継時的に組織学的解析を行った。

【結果・考察】*Cxcl12^{GFP/+}* マウスの 3 日齢において、CXCL12 は、歯胚を取り囲む歯小嚢、また歯根尖部歯乳頭で強い発現を認めた。さらに、*Cxcl12-iCreER^{T2}; R26R*-tdTomato マウスに 3 日齢でタモキシフェンを投与し、2 日後に解析したところ、tdTomato は歯根尖部に特異的な発現を認めた。また、*Oc-GFP; Cxcl12-iCreER^{T2}; R26R*-tdTomato マウスを歯根完成期 (25 日齢) において解析したところ、tdTomato は主に歯根部の歯髄、セメント質表面に分布し、*Oc-GFP* 陽性の象牙芽細胞やセメント芽細胞へと分化していた。さらに成体期 (3 カ月齢) においても tdTomato の同様の発現を認めた。これらの所見より、SCAP は歯髄と歯周組織双方の形成や恒常性に重要な役割を果たすことが示唆された。引き続き、SCAP の *in vivo* における細胞特性や分化制御機構を検討していく予定である。

企画調査研究助成終了報告

スケーリング後菌血症に対する高齢者生体応答の解析と光治療による予防法の確立～パイロット研究～ 両角俊哉 (神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔総合医療学講座歯周病学分野)

助成期間：平成 30 (2018) 年 10 月 25 日

～令和 2 (2020) 年 3 月 31 日

【背景】申請者らはこれまでに「SRP 後の菌血症発生」に注目し、中年期の歯周炎患者における一連の臨

床研究を進めてきた。まず、1/4 口腔 SRP 後に高頻度 (90%) で菌血症が起きるが、抗菌薬 (azithromycin) の併用で発生率は大幅に低下 (20%) することを明らかにした (Morozumi et al. 2010)。続けて、硬組織にも対応できるエルビウムヤグ (Er: YAG) レーザーを用いると、菌血症を起こさずにスケーリングを行えることを報告した (Komatsu et al. 2012)。さらに、広汎型慢性歯周炎患者にフルマウス SRP を行うと高い治療効果を示すが、処置 1 日後においても体温、血清中の

高感度 CRP および IFN- γ が有意に上昇していた。すなわち、一過性の高サイトカイン血症が起きていた (Morozumi et al. 2018)。一方で、azithromycin 併用によりそれらの抑制効果が示された (Yashima et al. 2019)。

高齢者においては、唾液の分泌減少や身体機能の低下による不十分なセルフケアが、口腔内の細菌数を増加させている。また、免疫力低下により感染しやすい状態にある。そのため、歯周治療に伴う菌血症が一過性で終わらず、長時間の菌血症が続くことで全身性の高リスクとなる可能性がある。したがって、高齢者における菌血症への有効な対策法を確立することは急務とされている。高齢者における抗菌薬の予防投与には、耐性菌出現や菌交代現象、腎機能障害などの副作用があり、頻回な使用は危険である。一方、Er:YAG レーザーはわれわれが報告した中年期の歯周炎患者と同様、高齢者においても有効性を示す可能性がある。

【目的】本研究の目的は、①高齢者の慢性歯周炎患者における SRP 後の生体応答および自律神経活動の変

化を調べること、②上記影響を抑制するための Er:YAG レーザー応用の効果を検討することである。

【方法】神奈川歯科大学附属病院および新潟大学歯学総合病院の来院患者から、インフォームドコンセントが得られた中年期および高齢者の広汎型慢性歯周炎患者 (Stage II, III Grade B) 30 名の 1/4 口腔に対し Er:YAG レーザーもしくは手用スケーラーにて歯肉縁下スケーリング (SRP) を行う。採血は処置前と処置直後および 12 週後に、生理指標測定 (血圧、心拍変動等) は処置直前と直後に行う。採取した血液から血中エンドトキシン、分離した血清から高感度 CRP や炎症性メディエーター (IL-6, TNF- α 等) を解析する。

【結果】申請者の所属機関異動により、2 施設による実施となった。新型コロナウイルス蔓延により研究は一時中断となっていたが、徐々に再開している。2021 年の秋季日本歯周病学会学術大会にてデータの詳細を報告する予定である。

第 53 回 「若手研究者の集い」 開催報告

第 63 回春季日本歯周病学会学術大会において、第 53 回「若手研究者の集い」を 2020 年 5 月 28 日 (木) に現地開催する予定で準備を進めておりましたが、学術大会自体が Web でのオンライン開催となった関係上、今回の若手研究者の集いは、大学別担当の先生方にメール配信をして供覧する形式での開催となりました。色々のご協力いただきました大学別担当の先生方に、本紙面をお借りして感謝申し上げます。

さて、今回の若手研究者の集いでは、日本大学松戸歯学部歯周治療学講座の中山洋平先生と、鶴見大学歯学部附属病院総合歯科 2 の山口博康先生に講師を引き受けていただきました。

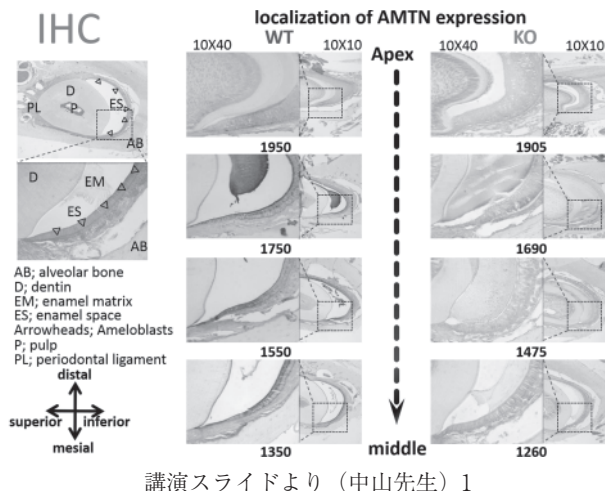
中山先生には「カナダ・トロント大学留学経験とそれを生かしたその後の研究—接合上皮におけるアメロチン遺伝子発現調節機構の解析—」と題して、歯肉接合上皮におけるアメロチンの働きについてなど、組織学的解析を含めた貴重な研究データを多数提供いただきました。また、山口先生には「今までの研究を振り返って」と題して、Er:YAG レーザー照射の影響による LPS の構造変化や、異動になりながらも研究を継続していくことの重要性について、重厚な講演資

料を提供していただきました。今回の講師 2 名の先生方のスライドを拝見した際、その内容の充実度に圧倒され、さらに、今後留学を志す若手研究者の先生方への情熱を感じるような構成でもあり、郡山の地で実際に講演をしていただく機会がなくなってしまったことに対して、大変残念な思いに駆られました。

今回は新型コロナウイルス感染拡大の影響でこのような形式での開催になってしまいましたが、そう遠くない将来に、また若手研究者の集いが通常どおり開催されると信じています。さらに、若手研究者の集いを学術大会と並行して継続開催する意義について、今一度、日本歯周病学会の全会員の方々に思いを新たにさせていただく機会となればとも考えております。

最後に、今回の開催に際し、多大なご尽力をいただきました関係者各位、特に前世話人であった富田幸代先生 (東京歯科大学歯周病学講座)、大会長の高橋慶壮教授、準備委員長の大島光宏教授に心より感謝申し上げます。

世話人 鶴見大学歯学部歯周病学講座
長野孝俊



講演スライドより (中山先生) 1



講演スライドより (中山先生) 2

Introduction

臨床研修の法制化と共に専任教員となる2006年～
総合歯科2の現状と展望～臨床研修を中心に～

山口博康 Hirayasu YAMAGUCHI 鶴見大学歯学部附属病院総合歯科2 講師



Tsurumi Bulletin of Dental Science
Vol 29 No1 p17-22, 2014

講演スライドより (山口先生) 1

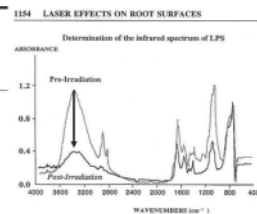
総合歯科2では、研修医教育、臨床研修プログラムの作成、複合型・協力型施設の測定と管理を行っている。鶴見大学歯学部同窓会緊急派遣医制度に協力し、同窓会員が傷害や疾病等により歯科診療業務が困難になった場合に、歯科医師を派遣して診療所業務の補助を行っている。また、厚生省の定める指導歯科医関係指針に基づいた臨床研修指導歯科医講習会を実施し、指導医育成に貢献している。

Effects of Irradiation of an Erbium: YAG Laser on Root Surfaces*

Hirayasu Yamaguchi, Kazuyuki Kobayashi, Reiko Otsuka, Ei-ichi Sakahara, Tetsuo Nawa, Takashi Arai, and Iro Nakamura

THE APPLICATION OF ERBIUM:YAG LASER (Er:YAG) irradiation has been investigated for periodontal therapy. The purpose of this study was to evaluate the effects of Er:YAG laser irradiation on root surfaces using a scanning electron microscope (SEM) and to determine the laser's ability to remove lipopolysaccharides (LPS). Infrared spectroscopy was used to investigate the effects of the laser on LPS applied to root dentin pellets. Penicillin extracted for orthodontic reasons were prepared for this study. The crown were removed below the cemento-enamel junction, longitudinally sectioned, and the contents of the pulp chamber were removed. Then 15 root tips (5×5×1 mm) were classified into 3 groups of 5 each as follows: group 1, tips without any treatment; group 2, placed tips with the cement layers left untouched; and group 3, placed until the dentin surface was disclosed. The center of each specimen was used as the experimental irradiated area and the peripheral area served as a control. The quantity of vapor delivered by Er:YAG laser was highly increased, and the irradiated areas displayed little morphogenic changes. The lyophilized sample LPS (111) B4 from *E. coli* was then mixed with potassium bromide and pressed into a tablet, which was examined at 4,000–400 Kaysen. The lyophilized LPS had a peak at 2,944 μm . LPS on the root dentin pellets was cleaned away as much as possible by 150 washings in pyrogen-free water using an ultrasonic cleaner. Five μl of 24 IU LPS solution was dropped on the root dentin pellets, which were then irradiated by the Er:YAG laser, and washed using the ultrasonic cleaner in pyrogen-free water. The amount of the extracted LPS solution was determined by spectrophotometer at 405nm. The Er:YAG laser could remove 81.9% of the LPS. This study suggests that Er:YAG laser irradiation might be useful for root conditioning in periodontal therapy. However, clinical testing is necessary to establish what, if any, utility the Er:YAG laser has as a part of periodontal therapy. *J Periodontol* 1997;68:1212-1215.

Key Words: Lasers; tooth root; periodontal disease/therapy.



LPSとEr: YAGの吸収波長が近似しているため、LPSへのレーザー照射により影響を与える
J of Periodontology 1997

講演スライドより (山口先生) 2

編集後記

「食傷気味」といえば不謹慎ですが、新型コロナ情報に新鮮さを感じられなくなりました。本来ならば今頃は東京オリンピックが開催され、メダル獲得で国全体が明るくなっていたはずなのに散々です。令和2年度春季学術大会大会長の高橋慶壮先生、秋季学術大会大会長の三辺正人先生もWeb開催ということで、さぞかし心を痛められたのではないかと思います。ところが、本ニュースレターのトップページを最後までお読みください。2024年春に福島で開催とのことのお知らせです。再度の準備は大変かと察しますが、会員一同で応援しましょう。ともあれ、さすが日本歯周病学会、粋な計らいに感服します。

さて、私の勤務する大学にも学生が徐々に戻ってきました。長〜い春休み（本来は自学自習期間？）を、若者はしなやかに、さほど勉学に打ち込むことなく適応していたようです。新興感染症はこれからも高い確率で、さまざまな様式で流行ると考えられます。歯科医療も今のような社会を当たり前を受け止め、社会に適応する術を否応なく見つけなくてはならないのです。もちろん、読者の皆さまはすでに「来院させない医療」「遠隔診療」などを思い描かれていると察します。単なる思いで終わらせるのではなく、形あるものに整えなくては生き残れない時代、それは私たちの想像よりもずっと近い将来なのかもしれません。

(広報委員会副委員長 森田 学)